

2020. 6. 1

## 鉄筋コンクリート造配筋標準図の改定・公表について

日建連 建築設計委員会（委員長・尾崎勝 鹿島建設副社長執行役員）は、この度、2012年に建築業界全体で一般仕様として使用されることを目指して発行した「鉄筋コンクリート造配筋標準図」を改定・公表しました。

### 【背景】

鉄筋コンクリート造建築物における配筋標準図は設計者毎に作成し、利用されてきました。そこで、日建連 建築設計委員会 構造設計部会では、異なる配筋標準図の使用による鉄筋工事の現場での混乱、配筋の誤りを減らすために、統一化した配筋標準図（初版）を2012年に作成・公表しました。

初版の公表から8年が経過し、建設会社、設計事務所でも共通仕様として広く使用され、個別の配筋図の追加依頼、鉄筋工事の現場からの追記要望を受けるようになりました。今回の改定では、一般社団法人日本建築構造技術者協会（以下J S C A）と協働して改定作業を行っています。なお、日建連鉄筋コンクリート造配筋標準図は初版同様に「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）、「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」（日本建築学会）、「建築工事標準仕様書・同解説 J A S S 5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）、「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」（日本建築学会）を参考に作成しています。

### 【概要】

初版は、定着長さ・継手長さなど配筋標準図の統一化を中心に作成しました。本改定では、専業設計事務所の多くが所属するJ S C Aと日建連 鉄筋コンクリート造配筋標準図作成WGが共同WGを作り、異なる立場で議論を重ねました。結果として、配筋詳細図の説明を中心に修正し、標準図利用者からの追加依頼、鉄筋工事現場からの追記要望などを取り入れました。改定内容の概略は以下の通りです。

- ・設計者、施工者の誤解を招きかねない表現を、よりわかりやすい形式、文章に修正
- ・初版に記載がなかった現場で多く用いられている配筋要領を追記（「あき重ね継手」、「片持ち大梁（最上階）」、「片持ちスラブ」、「単独円形小開口」、「スラブ開口部が柱または梁に接する場合」など）

今後も建設会社、設計事務所の共通の標準図として普及を図り、実現場における負担の軽減、建設工事の迅速化、ならびに施工品質の確保に更に貢献できると考えています。

なお、利用の方法については、日建連ホームページの出版物のコーナーからダウンロード可能です。

本件に関する問い合わせ先

(一社)日本建設業連合会（担当：鈴木）

e mail : ken\_sekk@nikkenren.or.jp (建築部 設計担当事務局)  
東京都中央区八丁堀 2-5-1 東京建設会館